

非稼働病床の現況について (大阪市南部 基本保健医療圏・病院)

資料 2-4

※過去 1 年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去 1 年間病床が一度も稼働していない有床診療所（非稼働病床という）

【南部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	医療法人徳洲会 正和病院	大阪市平野区	25床	令和 7 年度	法人が令和7年7月1日から変更となり、主に旧法人の医師・看護師の退職に伴い、休止がやむを得ない状態であったため。	再稼働する。	未定	当院は築60年ということもあり、新築移転を計画している。現在、土地を選定中。
2	長吉総合病院	大阪市平野区	66床	令和 6 年度	北3階病棟を休止している理由については、令和3年度からのコロナ禍により、より多くのコロナ患者の受け入れを果たすべくコロナ病棟として令和5年度まで運用していました。コロナ禍が終わり、陰圧器や区画整理など感染対策が整った当該病棟の活用としてはコロナ等感染症にも対応できる急性期病棟として再稼働するために令和6年度から人材確保に努めていますが、当院全体の職員の高齢化により、退職が増加し、新しく職員を採用しても退職した他病棟の人員を満たすために優先的に配置していた関係上、北3階病棟1病棟分の職員確保に繋がっていました。令和7年度においては、経営上厳しいのですが、採用費（紹介手数料等）の予算を拡充して病棟再開に向けて人材を確保しているところです。 東3階を休止している理由は療養病棟から回復リハビリテーション病棟として病床転換するために病棟の改装をすべく準備を進めているところです。	再稼働する。	翌年度中	北3階病棟は、令和8年4月に再稼働するため看護師や介護職員の採用を順次進めています。 令和7年11月現在において、令和8年4月1日までの入職予定（看護師：10名、介護職員：8名）であり、38床を稼働できるための看護師13名以上になるよう引き続き職員の確保を行い、全体的な異動を行い令和8年4月より稼働する予定です。 東3階病棟は、令和8年度中に回復リハビリテーション病棟として再稼働する予定です。病棟の痛んだ箇所の整備及び病床のリフォームの計画を立てているところです。 また、令和7年9月2日付けで療養病床12床を減少済で、現在は許可病床309床となっております。
3	社会医療法人杏樹会 杏林記念病院	大阪市西成区	61床	令和 4 年度	令和6年度中に90～100床の稼働を目標に、医師2名、看護要員15名人員を確保し、病床の再稼働を図るべく努めておりましたが、残念ながら実現に至っておりません。 要因としては、当院が所在する地域は、未だ新型コロナウイルス感染症の患者様が多く（本日現在も数名入院していらっしゃいます）入職を敬遠されるケースがあることや、紹介業者の存在です。具体的には、職員を採用する際に、残念ながら紹介業者を利用せざるを得ない状況ですが、対応する担当者の不手際（医療人材採用の経験不足）や手数料の値上げ等で、仮に良い人材であっても採用をお断りするケースがございました。 当院においては、令和7年度においても、特に夏場は、熱中症や近隣の介護事業所等のクラスターの発生により、病床が不足して、救急の受け入れを制限せざるを得ない状況が何度も発生いたしております。 また、南海トラフ地震等の大規模災害に備え、あと、30床程度の病床は確保しておきたいと考えております。早急に、非稼働病床の減少に向けて努力してまいります。	病床の一部を削減し、再稼働する。	翌年度中	先日、大阪府健康医療部 保健医療室保健医療企画課の地域医療構想の取組の推進に向けた調査のご担当者様に対し、当院における地域医療構想の取組の推進に向けた調査を以下の通りご回答させていただきました。 令和7年度若しくは令和8年度において、以下の通り病床を一部病床を削減した上で、非稼働病床を稼働する。 入院料 地域一般入院料 1 許可病床 120床 削減する病床 40床 変更後の病床 80床 また、医療人材の確保について、紹介業者頼りではなく、看護学校への求人の為の訪問（実習の受入を含む）や入職祝い金等の創設、福利厚生の充実等に着手しております。
4	社会医療法人山紀会 山本第三病院	大阪市西成区	36床	平成 21 年度	現在の休床数は一般病床の36床です。 病院が老朽化の為、新築移転の計画があります。 新築移転時に休床の36床を回復期リハビリテーション病棟と地域包括ケア病棟へ転換することを計画しております。	再稼働する。	未定	新築移転の時期は現在未定です。 移転場所が決まらない状況の為具体的な計画は立てることが出来ません。
5	大阪公立大学医学部附属病院	大阪市阿倍野区	81床	令和 4 年度	病棟再編の計画はある。但し、昨今の経営状態を鑑みると再編に使用できる予算が確保できないため。	再稼働する。	未定	経営状態の先行きが不透明のため、時期は未定。

非稼働病床の現況について (大阪市南部 基本保健医療圏・診療所)

※過去 1 年間一度も稼働していない病床を有する病院または過去 1 年間病床が一度も稼働していない有床診療所 (非稼働病床という)

【南部】

	医療機関名	所在市区	非稼働病床の状況			計画		
			病床数	非稼働になつた時期	稼働できない理由	計画内容	達成時期	計画の詳細
1	医療法人中島クリニック	大阪市住之江区	5床	平成 1 年度	経営上の問題、施設の老朽化、スタッフ不足等。様々。	その他		経営状態を改善してからの施設の設備の更新等必要項目は多々ありますが具体的な時期は現在立てられない状況です。
2	医療法人五常会 浅野クリニック	大阪市西成区	10床	平成 29 年度	この間経営上、人員を雇用する余裕がない。診療点数の縮減、材料費・設備費・人件費の高騰に収入が追い付いていない。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		国会で議論の俎上に上がっている医療費制度改定に期待している。 また病床稼働に向け、節電、必要経費の見直しなど自助努力を行っている。
3	猪木産婦人科	大阪市西成区	1床	平成 18 年度	母体保護法指定のための病床	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		母体保護法指定のための病床であり廃止の予定はない
4	医療法人心明会 レディースクリニックさわだ	大阪市阿倍野区	3床	平成 31 年度	中絶患者が居なかつたため。	指定医療機関として必要であるため、現状の運用通りとし、他の目的で使用しない。		患者の要件と医療者の充実を鑑みて時期は検討します。